

I ミニアチュアブック

1. ミニアチュアブックとは

ミニチュアブックとは、小型の本である。統一された定義はないが、一定以下のサイズのもの指している。ミニチュアブックは資料の持つ意味や用途、利用者が一般的なサイズの図書と異なる。その小ささから、日常の祈祷書や暦のように常時携帯するような実用品や、工芸品のようなコレクション対象、子供の教育用、印刷・製本技術を示す目的など様々な用途で作られ、使われてきた。

ミニチュアブックの収集は古くから行われている。イギリスでは 1920 年代にクイーン・メアリーのドールハウスブックコレクションが作られ、アメリカでもセオドア・ルーズベルト大統領などの多くのコレクターが生まれている。日本でも国内外のミニチュアブックを収集するコレクターが存在している。

ミニチュアブックの研究も行われ、20 世紀初頭に Henderson は *The News-Letters of the LXIVMOS* を定期刊行した。その後、Bondy や Bromer、Welsh による著書も出版されている。また *Miniature Book Society* というコレクターや研究者の集まりも作られている。しかし、ミニチュアブックの種類や歴史について、コレクターや研究者がどのような議論をし、どのような研究上の論点があるのかについては、明示的に論じられてこなかった。

2. 分類

分類とは対象となる事物を共通する特定の特徴を基にまとめることである。事物を特定の

方法と配置に従って秩序だてて体系化するのである。そのため、既に分類されている物が、どのような視点に基づいて分類をしているかを見ることで、分類をした者が対象となる全体をどのようなものと理解しているか、どのように再構成したいのかを把握できる。

先行著作の構成と分類をみて、その比較からミニチュアブック研究の論点を整理することでその全体像を把握することが可能である。ミニチュアブックについては日本十進分類のような標準的な分類は用いられていない。コレクターや研究者はミニチュアブックについての著書内での章分けやコレクションの配架のために何らかの原理に基づいてミニチュアブックを整理・分類している。

II 研究の目的と方法

1. 研究の目的

本研究の目的は、先行研究においてミニチュアブックに関する議論をどのような原理に基づいて整理・分類しているかを知ることである。これにより、ミニチュアブックに関する議論を整理することができ、研究領域を定めることが可能となる。

2. 研究方法

本研究ではまず、既存研究においてミニチュアブックについてどのように整理してきたかを見るために、専門書の中でどのように区分して論じられてきたのか、ミニチュアブックの蔵書目録やオークションの競売目録でどのように分けられてきたのか、コレクションでど

のように分類されているかをみた。そして、ミニチュアブックについての分類方法をまとめた。最後に、それぞれの分類方法がどのような視点（原理）に基づいているのか考察した。

3. 研究対象

研究対象を第1表に挙げた。特定のジャンルやテーマ、国籍にとらわれずにミニチュアブックを幅広く収録した資料を対象にした。そのため、例えば聖書のみなどの特定の分野のみを収録したものは除外した。

専門書として、Bondy の *Miniature Books: their History from the Beginnings to the Present Day*¹⁾ と、Bromer と Edison の *Miniature books: 4,000 years of tiny treasures*²⁾ を選んだ。

書誌として Welsh の *A bibliography of miniature books (1470-1965)*³⁾ を、蔵書目録として Spielmann の *Catalogue of the library of miniature book*⁴⁾ を、競売目録として丸善から出された今井田勲コレクションの販売目録である『世界の豆本/小型本コレクション』を用いた。

そしてコレクションとしては日本国内のある個人コレクターが収集した2000冊強のコレクションを調査した。これはミニチュアブックを対象にしたコレクションとしては世界的に見ても量の多いもので、1974年に今井田が国内の豆本コレクター700人に対して行った質問紙調査でも2000冊を所蔵している者はなかった⁵⁾。

III それぞれの著作での分類

1. Bondy(専門書1)

前半では歴史的に各世紀別に分け、後半では時代を横断してテーマ別、サイズや装丁別に論じている。

時代別の分類では16世紀まで、17世紀、18世紀、19世紀と分け、ミニチュアブックの出版が盛んになった19世紀については出版地や出版者、テーマごとの分類も行っている。

19世紀のものについてはテーマ別分類では聖書と暦、旅行用の図書を挙げている。そして時代を横断して衣装、恋愛、作法、花、美食とタバコ、歴史と政治、ユーモア、狩猟、新聞と雑誌、植字、歌、技術、地理と旅行、辞書を挙げていた。

2. Bromer(専門書2)

各章の章分けには物理的形態別、サイズ別、利用者別、テーマ別に分けていた。

装飾別に分けている章としては絵入り写本、本に関する芸術、風変わりなものがある。絵入り写本は中世から現代までのものを時代別に見ており、特筆すべき製作者を個別に見ていた。本に関する芸術では製紙・印刷・活字・製本を見ていた。風変わりなものとしては隠し絵や芸術家の作った本を取り上げている。

サイズによって切り分けられた章では時代ごとの最小の本についての章があった。

利用者としては子供と成人男性がある。子供向けの本にはアルファベット、入門書、箱入り

第1表：研究対象

著者	タイトル	種類	出版年
Bondy	<i>Miniature Books: their History from the Beginnings to the Present Day</i>	専門書	1981
Bromer	<i>Miniature books: 4,000 years of tiny treasures.</i>	専門書	2007
Welsh	<i>A bibliography of miniature books (1470-1965).</i>	書誌	1989
Spielmann	<i>Catalogue of the library of miniature book.</i>	目録	1961
丸善	世界の豆本/小型本コレクション	目録	
個人コレクション		コレクション	

のセット本、子供が書いた本、視覚的な楽しみがある本があった。成人男性向けは食事と酒とたばこ、音楽と笑い、哲学、旅の楽しみといったものを挙げている。

テーマ別には宗教、暦、政治があった。宗教は聖書をはじめとしてインドやペルシア、日本のものがあった。暦は出版地・出版者ごとに分けられており、政治的なものとしてはアメリカ大統領の演説集や全体主義国家のプロパガンダが挙げられていた。

3. Welsh(書誌)

分類をせず、収録対象を著者名順に並べ、著者名のわからないものはタイトル順に並べていた。また、ショートタイトルによる索引を用意していた。

4. Spielman(目録1)

こちらでも分類はしておらず、名前順としてシリーズタイトル順、著者名順、タイトル順の順で並んでいる。また著者名、出版者、挿絵者、出版地別の索引を用意している。

5. 今井田コレクション(目録2)

今井田コレクションの販売目録では最初に洋書と和書に分けていた。洋書は古刊本と4～7センチのものは独立した章を設けている。それ以外を10センチ以上とそれ未満に分けた上で、シリーズ物はシリーズ別に、単行のものは特装本とテーマ別に分けている。和書は10センチを境に分けた上で江戸から戦前のものと戦後のものに分けた上でそれぞれを特装本とテーマ別に分けていた。

テーマ別に分ける際は、歴史・伝記・文学・詩学と辞書・書誌そのほかに分けている。

6. 個人コレクション(コレクション)

個人コレクションには蔵書リスト等が存在しないため、実際の書架での配置を見たところ、時代別、出版地・出版者別、シリーズ別、利用者別、テーマ別、サイズ別、特装別の分類が見られた。

時代別としては19世紀以前のものを集めて配架していた。出版地別としては共産圏の出版物のコーナーを設けて置いている。それ以外の地域のものも同じ出版者のシリーズ物もある程度揃っている場合は同じ場所に集めていた。利用者別としては児童書、酒やコーヒー、ゴルフなどの成人男性の娯楽に関する本、女性のための知識や趣味の本をそれぞれ集めていた。テーマとしては辞書、聖書、暦のコーナーを設けていた。サイズ別では1センチ以下のサイズの本と、2～3センチ程度の本をそれぞれ集めて、装飾別の分類では特定の装丁者の本や限定本を集めていた。

IV 調査結果のまとめ

今回の調査の結果、分類方法には出版年別、出版地・出版者別、シリーズ別、対象者別、テーマ別、サイズ別、装飾別という視点があることがわかった。

出版年による分類はいつを分かれ目とするかは異なるが、いずれも世紀の分かれ目を基準にしている。また、和書は戦前と戦後に分けられていた。大きな分類区分としては出版年を用いていなくても、テーマ別に分けた中で更に時代別に分けている場合もあった。

出版地・出版者による分類では、特に19世紀末から20世紀初頭にかけて活動していた出版者を取り上げていた。

シリーズ別の分類は出版者別に見る中でより細かく見る中で取り上げている。

対象者による分類は児童書、成人男性向け、女性向けに分けられていた。

テーマ別の分類では宗教関係、暦、政治が多くの場合挙げられていた。また、歴史、辞書も分けていた。

サイズによる分類では極小サイズの本を取り上げる場合が多かった。また、今井田コレクションでは4~7センチ、10センチ以下、10センチ以上に分けていた。

特別な装飾がなされている本については特に装丁、印刷、製本を見ていることが多い。

V 分類の基となる原理

先行研究ではミニチュアブックそのものの分類ではなく、ミニチュアブックに関する議論を分類していることがわかった。調査結果のそれぞれの分類方法がどのような考えをもとにしているかを考察したところ、以下の3つに大別できることがわかった。

出版年ごとに分類することで、時代ごとのミニチュアブックの特徴を見ていくことができる。これは出版地や出版者やシリーズによる分類と組み合わせることで、ある時代のある地域の出版事情や政治的な情勢を含めた、出版地別の出版史を追うこともできる。

対象者による分類とテーマによる分類はミニチュアブックの利用に関する見方である。対象者による分類は誰がミニチュアブックを利用していったかを示している。テーマによる分類は、どのような内容のミニチュアブックが利用されていたかを示している。誰が、どのように利用していたのかをみることで、ミニチュアブックの読書史を追うことができる。

サイズと装丁に関する分類は物としてのミニチュアブックを生み出す出版者の技術と芸術性とを見る分類である。極小サイズの本を

作るためには高い技術が必要であり、最小サイズの本はその本を作った者の印刷・製本技術を物語っている。また、装丁や印刷などの様々な装飾による分類は、どのような技法や美意識がミニチュアブックの装飾に用いられていたのかを見ており、ミニチュアブックの芸術性を見ようとしている。

以上より、ミニチュアブックの分類の区分原理として、時間軸と出版地を基にした出版史を追う視点、対象者とテーマを基にした読書史を追う視点、サイズと装飾を基にした技術と芸術を見る視点があることが分かった(第2表)。

第2表：分類方法とその原理

分類方法	元となる原理
出版年	出版史
出版地・出版者	
シリーズ	
対象者	読書史
テーマ	
サイズ	技術・芸術
装飾	

参考文献

1. Bondy, Louis W, *Miniature Books: their History from the Beginnings to the Present Day*. London: Sheppard Press, 1981, 221p.
2. Bromer, Anne; Edison, Julian I. *Miniature books : 4,000 years of tiny treasures*. New York: Abrams in association with Grolier Club, 2007, 215p.
3. Welsh, Doris V. *A bibliography of miniature books (1470-1965)*. N.Y., K.I. Rickard, 1989, 250p.
4. Spielmann, Percy Edwin. *Catalogue of the library of miniature book*. London : E. Arnold, 1961, 289p.
5. 今井田勲. *私の稀覯本 豆本とその周辺*. 東京: 丸ノ内出版, 1976, 294p.